

はじめに

1975年度の年次報告として、当研究所の研究調査活動等の概要をここに公表する。

この年度において、平城宮跡発掘調査部は相当の精力を平城京各地の緊急調査にそそぐ結果となつたが、1975年末には左京三条二坊の発掘で8世紀のほぼ完全な園池を発見するという画期的な事があった。飛鳥藤原宮跡発掘調査部では藤原宮北面中門の跡を確認、多量の木簡を発見する等の成果をあげ、また藤原京条坊の姿も漸く明らかになりつつある。

美術工芸・建造物・歴史の各研究室では、専門を同じくする所員が一体となり、社寺や民家等の共同調査を精力的に進めた。

飛鳥資料館は開館以来1年余を経過し、観覧者は10万人を超え、相当の評価を得ている。発足2年目を迎えた埋蔵文化財センターは、部制の設置・遺物処理研究室の新設があり、研修課程も増加し、各地方公共団体への指導も充実しつつある。

平城宮跡の整備も一段と進み、また新たに第3収蔵庫が完成し、収蔵施設が増加したほか、遺物の整理や保存処理のための施設が整い、また発掘作業員の控室を設けることができた。

このほか、学報等の刊行も漸く軌道にのるなど、当所の事業は一応順調に進んでいるが、事業量に比し人員や施設設備の充実が急務であり、各方面の暖い御支援を願ってやまない。

1976年9月

奈良国立文化財研究所長

小川修三